

## 2013年度研究調査事業実績報告書

日 付：2014/03/18

委員会名：タイヤ/路面摩擦特性部門委員会

委員長名：花田 亮治

報告書作成者：花田 亮治

### 1. 研究調査テーマ

タイヤ/路面摩擦特性及びその周辺技術に関する文献調査(2006年～2012年)

### 2. 研究調査事業の概要

2012-13年度研究調査事業は、2006年～2012年の「タイヤ/路面摩擦特性及びその周辺技術に関する文献調査」を実施した。本研究調査事業は前回（2006年）実施した文献調査との比較を含め、トレンドの違い等を考察するため、調査対象及び調査手法は基本的に前回調査に準じた形とした。さらに、昨今の大きなトレンドである環境性能についてのトレンド及び技術動向をまとめた。

本来年研究調査事業の成果は2014年2月に本部門委員会主催のシンポジウムで発表した。また、全会員への成果還元のため、自技会のWebに結果をアップする予定。

### 3. 研究調査の成果

成果について具体的にご記入ください。

#### ● 前回調査（2000-2005）とのトレンド比較

下記1～10については、前回調査と同じ形式で調査して傾向を対比することで、タイヤに関する研究課題の変化を明らかとした。


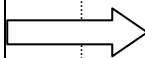

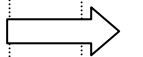

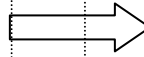






1. モデル化・計測技術比率の年間推移
2. 目的・性能別分類（中分類）の内容比率
3. 調査文献分布（文献名と技術分野）
4. 調査対象（掲載媒体）の分類（文献ごとの論文数）
5. 技術分野別分類
6. 特性計測の小分類（冰雪、運動、制動）の論文数年推移
7. モデル化論文の小分類（冰雪、運動、制動）の論文数年推移
8. モデル化技術の手段別分類（中分類）の年推移
9. 主要物理モデルの利用年推移
10. 制御、センシング技術の論文件数年推移

● 前回の整理項目以外に次の項目を追加し、車関連技術者がタイヤに関する研究に注目するようになっていることを定量的に示した。

1. タイヤ関連論文の年推移
2. 環境性能の小分類の年推移

#### 4. 実績と計画との差異

項目ごとに上段に計画を黒の矢印で記入していますので、下段に実施結果を白抜き矢印でご記入ください。

実施内容		2013 年上半期							2013 年下半期					
実施先	作業内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
① 調査文 献の選 定	調査する媒体の選 定と選定した媒体 の分担決定 (2012 年度に終 了)													
② 文 献 調 査	各自の分担媒体に 掲載されたタイヤ 関連文献調査													
	未提出者の文献の 再割り振り及び調 査													
③ 文 献 調 査 結 果 の 整 理	文献調査結果の整 理を行い、傾向分 析を行う													
④ シン ポ ジ ウ ム 発 表 原 稿 作 成	本部門委員会主催 のシンポジウムで の発表原稿作成													
⑤ シン ポ ジ ウ ム 発 表 原 稿 チェ ック	シンポジウムでの 発表原稿の内容チ ェック及び原稿修 正													
⑥ シン ポ ジ ウ ム で の 発 表	文献調査結果をシ ンポジウムで発表													

## 5. 委員会活動への影響

今回の研究調査において委員会活動へ影響した点についてご記入ください。

①前回行われた文献調査と同数の媒体に対して調査を行ったが、タイヤの転がり抵抗に対する注目の高まりに応じてタイヤ関連文献数が大幅に増加していた。そのため、委員会のメンバーにかなりの負担をかけてしまった。

②当初は調査対象の媒体の購入を計画していたが、著作権の問題から断念した。ただ、各委員が自社保有の媒体を積極的に調査協力してくれたことで、全く購入することなく、計画通りの調査を行うことができた。この経験から、委員間の親密さが増したと感じる。

## 6. 今回の研究調査結果について、会員への還元方法を下記より選択してください(複数回答可)。

- 会誌への記事掲載
- 春季大会オーガナイズドセッションでの発表
- 春季大会フォーラムでの発表
- シンポジウムでの発表
- 出版物の発行 (印刷物)
- 出版物の発行 (CD-ROM)
- その他 (具体的にご記入ください)

## 7. その他要望等があればご記入ください。

## 8. 支給額と執行額

支給総額	105000 円
執行額	100000 円

費 目		支給額	執行額
印刷製本費	資料印刷費、複写費、編集外注費(英訳)、CD制作費		
会議費	会場借上費		
諸謝金	原稿料		
通信運搬費	電話料、切手代、宅配料、運送用レター代		
委託費	外部委託、同時通訳代、電算データ入力代		
開発費	システム開発費		
資料購入費	参考資料等購入費		
物品購入費	部品代、看板等制作費		
消耗品費	燃料代、実験に必要な消耗品類		
臨時雇用費	アルバイト代	105000	100000
その他			
合 計			

## 9. 具体的な成果物

報告書は自由に記入願います。(資料が別があれば添付してください)

調査結果一覧および調査結果のまとめは、添付資料を参照。
-----------------------------